

上庄をよくするつどい

1 基本データ

- 地区名 上庄地区
- 地区人口 4, 0 0 5人
- 地区世帯数 1, 1 1 1世帯
(H26.3.1 現在)
- 地区面積 2 8, 4 7 1 ㌥
- 地区の沿革

上庄地区は、32の集落（行政区）で構成されており、地勢的には市街地南部に位置し、日本百名山の1つ荒島岳のふもとで、東西約6㌥、南北約12㌥ほどの広さを有している。地域は、一級河川の真名川と清滝川が作り出した扇状地形で、稲作とサトイモの生産が盛んな農村地区となっている。



- 実施主体 上庄をよくするつどい

2 現状と課題

地区の特性として、学校区が当地区と同じであり、保育園、幼稚園、小学校、中学校がそれぞれ1園（校）ずつであること、また、以前JAが単独で存続していたことなどから他地区にはない地域の特異性や地域の繋がりがあり、郷土愛も強い。

しかしながら、人口の微減、少子高齢化は同地区も少しずつ進んできており、各集落の活力や地域全体の活力も停滞化してきている。

こうしたことから、昨年度、当地区では、地域住民自らが地域を今一度見つめ直し、地区の伝承や文化を再認識しその価値と魅力を高めようと、地域の活性化や賑わいづくりに繋がるような事業に取り組むこととし、麻那姫伝説継承事業に取り組んだ。

昨年度の麻那姫音頭の復活や麻那姫像の展示庫設置の取り組みで、麻那姫伝説の地区住民への周知と継承の意識付けが芽生えたのではないかとと思われる。

本年度も、この麻那姫伝説継承事業を継続し、地域の賑わいと区民の絆を深め、地域の活性化を図るため、地区住民へのさらなる周知と事業の参加、協力をお願いし取り組んでいくこととした。

3 事業の内容

前述したとおり、昨年度の事業で、国道157号の上庄中学校入り口附近に麻那姫像の展示庫を設置し、シンボルである創作の麻那姫像を公民館から移動したことでまずは地区住民や通行する観光客に少しずつではあるが周知することができた。

本年度は、全ての地区住民への周知と地域の賑わいづくりを図るために、昨年度同様、各種団体連絡協議会や実行委員会を立ち上げ、以下の事業に取り組んだ。

(1) 麻那姫感謝祭の開催

開催日：10月6日（日） 午前10時30分～

（敬老会との同時開催）

参加者：約1, 100名

麻那姫伝説を後世に継承し、麻那姫の遺徳を讃え秋の収穫に感謝するため、第1回目の麻那姫感謝祭を開催した。

本事業は、地区住民総参加を目指し、各団体で構成した実行委員会、更には具体的な事業内容を検討していく運営委員会や専門部会を立ち上げ、延べ10回の会議を開催した。また、祭りのための準備として、のぼりの設置や備品の移動など地区住民が当日まで多くの作業に協働し、当日までの準備に携わった。



麻那姫感謝祭実行委員会の風景

初の試みであり、また、敬老会との合同開催ということもあり、実行委員会等では多くの意見が出、成功するか心配する声もあったが、当日は天候にも恵まれ、予想以上の来場者で賑わった。



麻那姫感謝祭の出店の様子



舞台上で麻那姫音頭を踊る中学生ジュニアリーダー

(2) 麻那姫伝説紙芝居の作成

脚色：上庄地区団体連絡協議会

画：榮 高史 榮 宏幸

作成部数：30部

麻那姫伝説を、地区の子どもたちにも知ってもらい、後世に継承していくために16枚で構成する創作紙芝居を作成することとした。

年度当初から、絵図や語り、構成を考えるため検討委員会を開催し、語りについては、上庄の方言も残して伝えたいという意見もあり、大野弁を取り入れるなど親しんでもらえる紙芝居を作成することとした。

作成には、絵図や語りの表現の校正で約半年をかけたようやく完成した。完成した紙芝居は保育園や小学校等の教育関係機関に配布し、また、語らいを行ってもらうため、紙芝居の舞台も購入し、広く活用していただくこととした。



完成した創作麻那姫伝説紙芝居



紙芝居の語らいを聞き入る保育園児

(3) ヨサコイ麻那姫楽曲の制作

麻那姫音頭が昨年度の同事業で復活し、地域の各イベント等で踊られるようになったが、今年度は幼児が軽やかに踊れる麻那姫音頭のヨサコイ版を作ろうとの意見が出、保育園、音楽業者、振付け講師と協議し、祭り等に相応しいヨサコイ麻那姫の楽曲作成に取り組んだ。

上庄保育園の担当保育士と音楽業者との間で、麻那姫や麻那姫伝説をイメージし、曲のテンポやリズム、雰囲気について何回も打ち合わせし、幼児が踊るに相応しい曲を作り上げた。

また、振り付けについても同様に、麻那姫をイメージした振り付けをお願いし、園児にあった踊りが完成した。



ヨサコイ麻那姫の振付の練習風景



ヨサコイ麻那姫を披露する上庄保育園児

(4) 麻那姫像展示庫の周辺整備

前年度に国道157号の上庄中学校入り口付近に麻那姫像の展示庫を設置し、伝説の周知と継承の意識付けを行ってきたが、今年度は、その展示庫周辺の環境整備を行った。雑草地であった周辺を、地元業者の協力を得ながら区長会ら地区住民が参加し、盛土の整備を行った。また、盛土整備後は、桜とヤマボウシの植栽を行い、展示庫周辺が花木で和める場所となるよう環境整備を行った。



麻那姫像展示庫周辺を盛土する地区民



植栽し整備された麻那姫像展示庫周辺

(5) 麻那姫音頭の法被作成

8月14日に「結の故郷・小学生ふるさと芸能発表会」が結ステーションで開催されたが、当地区の上庄小学校も、「麻那姫音頭」で発表会に参加することとなり、法被30着を作成した。

当日は、4学年の児童が参加し、麻那姫音頭を披露した。この法被作成で、当地区の夏まつり、麻那姫感謝祭、また、市の「ふるさと学習交流会」にも参加し、麻那姫伝説と音頭を広くPRすることができた。



麻那姫音頭の法被



小学生ふるさと芸能発表会に出演した上庄小4年生

(6) 麻那姫感謝祭うちわ及び顔出しパネルの作成

その他に、麻那姫感謝祭をPRするためにうちわを全戸分作成し、事前PRを図った。また、地区のイベント会場等で、子供たちに楽しんでもらえるよう麻那姫の顔出しパネルを作成し、今年度は、夏まつりや麻那姫感謝祭会場に設置した。



麻那姫感謝祭PRのうちわ



麻那姫と十文字長者の顔出しパネル

4 事業の成果

昨年に引き続き、麻那姫伝説に因んだ事業を取り組んだことで、上庄地区に住んでいながら麻那姫伝説を知らなかった人も、事業に参加することにより、事業の意義と伝説を継承していくという意識付けができたと思われる。特に、麻那姫感謝祭は多くの住民に来場してもらい、夏まつりとともに上庄地区の2大イベントとなるほどの賑わいと住民同士の交流の場を提供することが出来た。

同感謝祭では、多くのスタッフが休日にもかかわらず協力し、みなで新たな地区行事を盛り上げようとする絆を感じることができた。

また、麻那姫伝説は、これまで地元の歴史書等でしか紹介されておらず、子どもたちの大半

は知らなかったが、紙芝居の作成によるわかりやすい語りにより多くの子どもたちに伝説を知ってもらう機会を与えることが出来た。

こうした一連の継承事業で、地区の子どもからお年寄りまでが地区の伝承や文化に触れることができ、地元上庄を愛する気持ちと誇りに思う意識が芽生えたのではないかとと思われる。

5 今後の展望

麻那姫伝説継承事業は、今年度が2年目で軌道にも乗り、多くの事業に取り組むことができた。

地区住民にも年々浸透してきており、先般の各種団体連絡協議会では更に次年度以降も取り組んでいくことが決定した。

今後は、今年度から始まった麻那姫感謝祭の充実と更には当初から構想のあった上庄地区を縦断する国道157号を通称「麻那姫街道」となるようなソフト事業やハード事業に取り組んでいきたいと考えている。

そのためには、地区住民へのさらなる周知と事業の参加、協力をお願いし取り組んでいきたいと考えている。